

生部のみならず戦闘要員なりき（補兵部隊等の戦闘員減少のため）

6月19日夜より軍及び師団司令部との連絡全く途絶 6月23日夜師団司令部よりの患者護送員より左記要旨の命令を聞く

「部隊は最早統率ある行動をなし難し、各自出血を強要すべし」

我が部隊長は直ちに左記要旨の命令を下達す

「6月23日より同27日の間に於て3～4名宛1班となりて出撃し出血を強要すべし、尚幸いにして敵包囲線を突破し得る時は国頭に到り友軍に合っし出血作戦に参加すべし」

6月28日糸州の洞窟に於て小池部隊長は自決せりと伝えらる

個人功績

(1) 野戦病院なるを以つて戦闘即患者の収療故に一般戦闘部隊の如く其の功績により進級せしものなし

(2) 然れども昭和20年6月6日 部隊長は糸州の洞窟に於て全員集合せしめ「今日の如き情勢に於て最早功績書類の整備等は到底不可能なるを以つて特に功績のあつたものを披露する」として左記のことを挙げられしことあり

其の1 中島中尉以下は第1半部の重要な資材を輸送するにあたり弾雨の中然も激しき風雨を冒し連絡をとり其の目的を遂行せり（豊見城～糸州間の輸送）

其の2 糸州の自然洞窟野戦病院の開設に当たり島尾中尉以下の設営班は連夜被弾の下、資材を迅速に収集し洞窟内の泥濘中に棚式寝台を構築し傷者を早急に収療し得たり

其の3 南山曹長以下炊事係は食料の窮乏せる本洞窟生活に際し暗中飛弾にも屈せず食糧を獲得し部隊給与を円滑ならしめたり、其の間茶野下上等兵の犠牲を出したるは痛恨に堪えざる所なり

沖縄作戦に於ける第24師団防疫給水部史実資料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

山第1207部隊（第24師団防疫給水部）戦闘経過の概要

1. 昭和20年3月 沖縄本島周辺の状況逼迫するや山第3467部隊より沖縄現地召集兵約200名の転属を受け2ヶ中隊よりなる患者收容隊を編成す

第1中隊長	新堀大尉
第1少隊長	土佐准尉
第2少隊長	武内少尉
第2中隊長	黒沢少尉
第1少隊長	藤井准尉

2. 昭和20年4月中旬山第2474部隊（22i）石部隊に配属せられ第1線陣地に至るや部隊へ毎日患者收容隊を出し各大隊本部より首里赤田町まで一旦患者を搬送し応急処置給与などをなし更に首里より東風平村の陣地壕内或は各野戦病院に患者を自動貨車により運搬後退せしむ

担架兵の犠牲にも拘らず寡兵よく3000の患者の後退に努む
師団長より賞詞を授与せらる

3. 6月初中旬に至り全軍島尻地区への後退に伴い部隊は東風平村落より南方約2里の真壁村に転じ尚ほ患者收容の任務を遂行しありたる居り月18日午前10次頃敵軍部隊棲息壕接近により部隊長以下殆ど全員米須海岸或は宇江城（当時の山部隊司令部所在地）方面に出動各個に戦闘をなし以後部隊は解散状態に立ち至れり

4. 昭和20年6月10日頃約100名（防護兵を含む）の下士官以下を山第3474部隊に転属せしめて第1線の戦闘に参加せしむ